

美しい山形・最上川フォーラム 令和3年度通常総会議事録

1 日 時 令和3年7月6日（火）13時30分

2 場 所 山形県村山総合支庁本庁舎 講堂

3 出席者 別紙名簿のとおり

4 議事の経過

13時30分、司会を務める一般財団法人山形県理化学分析センター松本義文さんが開会を宣言した。

柴田洋雄会長のあいさつ（要旨）

- ・出席者への謝辞
- ・当フォーラムの特徴は、金融機関との連携が強いということがあるが、金融機関は低金利政策によって非常に厳しい経営環境にあると聞いている。かつては何でもお願ひしますという形で、頼ってきたことが今は難しくなっている。行政機関は想定外の支出や収入の減少、拡大する行政需要への対応に苦勞している状況にある。我々は産学公民の力を集めて事業を進めてきたが、置かれている環境は厳しいと認識している。
- ・我々は20年前に、環境の大切さを訴えて、地域の美しさと元気につなげようと考えてフォーラムを設立した。それが今やSDGsが世界の潮流となっており、我々に先見の明があったと言える。
- ・日々伝えられているように、マイクロプラスチックの影響が人間の身体にまで及ぶことが分かってきて、我々の生存が脅かされるような、10年前に想定していた以上に深刻な状況にあることから、我々の活動はこれからも進めていかなければならないと考えている。
- ・そのためには、皆さんの協力、皆で話し合い知恵を出し合って決めていくことが不可欠。当フォーラムはフラットな組織であることが特徴。
- ・山形は少子高齢化も進んでいるし過疎地も多いが、その中で暮らしている人々は良い。そのことを財産にして我々の活動に含めていきたいと考えている。
- ・そのような意味で本日の総会も、出席者の皆さんから忌憚のない御意見をお聞きしたい。何らかの発言をしていただくことでフォーラムの活動に貢献していただきたいと考えているのでよろしくお願ひする。

知事あいさつ

（原文のまま。山形県防災くらし安心部 消費生活・地域安全課 渥美祐司課長が代読披露）
「フォーラムが設立されて、20周年を迎えました。この間、フォーラムにおいては、「美しい山形・最上川100年プラン」のもと、母なる川「最上川」を美しい山形づくりのシンボルに掲げ、水環境の保全や川が育む文化の継承、さらには最上川を活用した地域活性化の取組みを県全域で活発に進めてまいりました。

会員の皆様におかれましては、豊かな自然や文化を後世に引き継ぐために日々御尽力いただいております。深く感謝の意を表する次第です。

さて、近年、人口減少の加速やグローバル化の進展、新型コロナウイルス感染症の

感染拡大など、私たちを取り巻く社会経済環境は大きく変化しております。また、自然災害が頻発、激甚化しており、令和2年7月豪雨では、最上川が氾濫し、多くの浸水被害が発生するなど、災害の恐ろしさを目の当たりにしたところです。

このような時代の潮流の中、環境保全、文化振興、地域経済の活性化など、本県の魅力や価値を活かしながら多角的に展開するフォーラムの取組みは、「人と自然がいきいきと調和し、真の豊かさと幸せを実感できる山形」の実現に資するものであり、また、SDGsが掲げる目標の実現にも貢献するものであります。

昨年度は、新型コロナの影響により、活動にも様々な制約や影響があったところですが、ポストコロナを見据え、皆様が誇りとして守り育てられている山形の美しさや魅力をアピールしてまいりたいと考えておりますので、引き続き御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

結びに、次代を担う子どもたちや若者たちに、この美しい県土を引き継いでいくため、これからも力強い活動が展開されることを期待いたしますとともに、皆様のますますの御活躍を心から祈念申し上げ、挨拶いたします。

令和3年7月6日

美しい山形・最上川フォーラム 顧問
山形県知事 吉村 美栄子 』

柴田会長が議長席に着き、協議を開始した。

議長が議事録署名人の指名について出席者に諮ったところ、議長一任の聲が上がり、議長は事務局に提案を求めた。事務局長が、株式会社テトラス代表取締役社長 野崎新治さん、公益社団法人山形県観光物産協会 板垣一樹さんに議事録署名人をお願いすることを提案し、特に異議なく承認された。

第1号議案 令和2年度事業報告及び収支決算（案）について
事務局長が以下の内容を説明した。

- ・法人会員の年会費について1会員1万円以上の御協力をお願いしたところ、51会員様から増額申出、増額効果は36万2千円に上ったこと。
- ・会員拡大の取組みについては、全市町村及び会員金融機関を訪問、個人会員の新規加入は71人。法人向け勧誘活動は新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響で未実施。
- ・各部会の事業実施にあたっては、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止に取り組みつつ、概ね予定した成果を上げることができたこと。
- ・身近な川や水辺の健康診断と美しい山形クリーンアップキャンペーンの実施にあたり、国土交通省の山形・酒田・新庄の各事務所様からの御支援、水質保全関係団体及び企業様からの御協力、県環境科学研究センター様との連携に対する謝辞。
- ・海岸漂着物対策の普及啓発の一環として実施しているスポGOMI大会が地域や学校、企業において定番化していること、学校等での出前講座や展示活動、海と日本プロジェクトへの参加など広報啓発の取組み状況。
- ・湧水を地域の資源として活用し、自然環境の保全と地域活性化につなげていく取組みの概要。

- ・夢の桜街道づくりについて、樹木医の派遣支援を天童市で実施。桜守育成講座の実施状況、東北夢の桜街道推進協議会による活動の中止、公益財団法人日本さくらの会から「さくら功労者」として表彰されたこと。
- ・機関誌「夢の桜街道 さくら物語」の発行を廃止し、ホームページ上での情報公開、発信に切り替えること。
- ・金融機関様の御協力を得て「夢の桜街道キャンペーン」を、市町村並びに関係団体の御協力を得て「写真と灯りの展示会」を開催したこと。
- ・地域おこし紙芝居作成については、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い中断しているが、今後の作成及び活用について検討していくこと。
- ・地域部会の活動について、身近な川や水辺の健康診断、スポGOMI大会、桜守育成、啓発イベントにおける協力など、活動全般を支えていただいていること。
- ・昨年度の会議開催状況、委託事業、助成事業、寄付金の内訳。
- ・令和2年度収支決算案について、特徴的事項を説明。収入の部では会員の退会に伴う会費収入の減額傾向。県補助金 4,434,348 円は事務局人件費補助、最上川上流清掃活動 605,000 円は山形河川国道事務所様からの委託によるもの、夢の桜街道積立金 1,650,000 円は、年度当初、会費や助成金等の収入が入ってくるまでの資金不足に対応するために積み立てているもの。
- ・支出の部では、費目全般にわたり経費の節減に努めたところ。フォーラム基盤強化積立金 300,000 円は今後Web環境の整備等を想定。
- ・夢の桜街道積立金 2,000,000 円の使途は既述のとおり。なお、名称が資金使途にそぐわないことを踏まえ、令和3年度当初予算から名称を「積立金」に変更。

補足として、以下の説明があった。

(菅原幸司清流・環境対策部会長) 新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響を受けた部分がかかなりあったことから、抑制的な活動を余儀なくされたが、現場的には県内のパートナーの皆さんが協力していただいたおかげで事業としてはそれなりの成果を上げることができたと評価しており、次年度以降新型コロナウイルス感染症の収束に従い盛り返していきたいと考えている。

(本間義衛最上川文化・地域経済活性化部会長)「夢の桜街道(積立金)」の名称見直しに関連して、当フォーラム設立当初、米沢から酒田まで最上川沿いに桜街道を整備して観光振興、経済活性化につなげようという構想があり、数年前まで桜の植栽を推進してきた。一方で山形新聞社が「桜回廊」事業を進めてきており、昨年までの植栽本数は5,985本、海外ではブラジル、タイ、台湾に植栽されている。数年前、黒沢社長と柴田会長との間で申し合わせが行われ、植栽は山形新聞社、維持管理は当フォーラムが担うとの役割分担がなされたところ。こうした経過について御理解のうえ今後とも御協力をお願いする。

(佐竹良廣村山地域部会長) 桜守の維持管理活動について、天童市が3年計画で実施しているが、桜守も増えてきており成果が上がっている。身近な川や水辺の健康診断では、山形市立本沢小学校の活動が熱心で、「本沢川ものがたり」という成果品の冊子を提出していただき感動した。地域おこし紙芝居については現在足踏み状態であり、今後検討していく。

大場健一監事が、監査結果について以下のとおり報告した。

- ・5月に会計監査を実施した。令和2年度収支決算書に基づき帳簿及び証拠書類その他を精査した結果相違なく、令和2年度事業実績書に基づき事業の内容について監査

した結果適正であったことを認める。

議長が出席者に諮ったところ、特に異議なく拍手で承認された。

第2号議案 令和3年度事業計画及び収支予算(案)について
事務局長が以下の内容を説明した。

- ・当フォーラムは設立以来20年を経過し、社会環境等が大きく変化していることや世界的なSDGsの潮流などを踏まえ、これまでの活動を振り返っての課題と、将来を見据えた活動の推進方向について、運営委員会内に設置した検討委員会において検討を開始した。その推進方向の検討素案については別紙3参照。
- ・令和3年度事業計画(案)は、この新しい推進方向の案の考え方に沿う形で再編したものであること。今後のミッションを、SDGsを原動力として「豊かな自然環境と文化が息づく魅力的な山形づくりを推進する」とことと再定義し、活動の柱を、「将来を担う世代の育成(教育・啓発)」、「地域の環境保全と安心づくり(課題解決)」、「環境や文化を地域活性化に活かす(活用)」の三つに区分したこと。
- ・柱の1、将来を担う世代の育成については、教育と啓発が主な内容。身近な川や水辺の健康診断やスポGOMI大会、海岸漂着物対策の普及啓発について、新型コロナウイルス感染症対策に対応して実施する。リモートシステムを活用した活動の広域展開と連携促進、環境教育資材の整備、海と日本プロジェクトとの連携、環境展等への出展や動画による発信など広報啓発の強化にも取り組む。
- ・懸案であるサポーターの創設については、簡易なアプリを使用して登録し交流できるような仕組みを構築。
- ・広報啓発の強化に関しては、YouTubeチャンネルの活用、動画配信を増やしていくこと。既に実施済みであるが、映画「マイクロプラスチックストーリー」の上映に取り組んだところ。
- ・柱の2、地域の環境保全と安心づくりは、課題解決の取組みであり、主に散乱ごみ対策と防災を中心に据えた。美しい山形クリーンアップキャンペーンの推進、県の海岸漂着物対策協議会に参加してのモニタリング体制構築や発生源抑制対策、流域治水対策の推進にあたり河川管理者や流域の団体等と連携した啓発活動の検討を進めること。
- ・柱の3、環境や文化を地域活性化に活かす、とは地域の環境資産や文化遺産を活用して地域活性化につなげる取組み。最上川夢の桜街道づくりとして樹木医の派遣や桜守養成講座を開催するとともに、活用や発信にも注力していくこと。既に写真と灯りの展示会は3月から6月にかけて県内9か所で巡回展示を実施済み。
- ・昨年度から開始した湧水の活用については、動画作成、参加型イベント、プロモーションの展開に取り組むこと。
- ・地域おこしの紙芝居については製作活動を再開するとともに広く活用していくこと。
- ・地域部会の活動については、構成員の高齢化や人員不足も聞かれるが、地域活動の維持はフォーラムの生命線であり、今後のあり方について検討が必要と認識。
- ・全体事項については、会員募集キャンペーンや法人に対するプレゼンテーション、法人会費増額要請などに取り組むこと。
- ・将来を見据えた活動指針の検討については年度内の取りまとめを目指し、広く会員や行政、企業等にも意見を求めていくこと。
- ・SDGs推進ネットワークに参加しているほか、20周年事業の一環として令和4

年度に本県で開催される「水シンポジウム」について事務局の一端を担い準備を進めること。

- ・今年度予定している委託事業や助成事業、連携事業の概要。
- ・令和3年度収支予算案について、収入の部、会費収入 5,150,000 円は前年度実績の 98 パーセントで積算、積立金 2,000,000 円は年度当初の資金不足に充当するもの。
- ・今後、助成金事業等が採択及び交付決定がされるにしたがって収入及び支出に反映される見込みであり、補正予算を組んでいく予定。

補足として、以下の説明があった。

(菅原清流・環境対策部会長) 当フォーラムが当初からやってきた活動はSDGsの目標に合致するものであったと言えるが、県民やパートナーに向けてのアピールに関しては力不足であったと思う。事業計画において、ミッションの抜本的な再構築、再定義を掲げているが、パートナー制度の創設もその一環であり、当部会としてもそういう方向でアピールしながら進めていきたい。

(本間最上川文化・地域経済活性化部会長) 事務局から説明があったような方向で、会員が一つになって取り組んでいくことをここで確認し、最上川フォーラムを発展させていけるよう、皆さんにお願いしたい。

(佐竹村山地域部会長) 清流・環境対策、最上川文化・地域経済活性化の両部会が実施する活動に積極的に参加していくとともに、地域におけるニーズを拾い上げて、実施できるものは実施していきたい。

(議長) 地域部会の活動について、年度途中であっても、こういうことがやりたいということがあれば積極的に取り上げて、事業化可能かどうか検討していくことが大事。SDGsということで事業計画が示されているが、これまでやってきたことの括りを変えたということ。企業や行政がSDGsで何かやりたいというときに、当フォーラムも一緒に関わっていきたくて考えている。

議長が出席者に諮ったところ、異議なしの声が上がり承認された。

第3号議案 役員改選について

事務局長が、次期役員名簿案に基づいて以下のとおり提案した。

- ・設立以来長きにわたり運営委員として御尽力いただいた、井上みやま様から健康上の理由により御退任の申し出があり、これを承認すること。
- ・運営委員の山形市長様、河北町長様、監事の舟形町長様が2か年の任期満了につき御退任となり、新たに、運営委員には天童市長様、遊佐町長様、監事に小国町長様から就任の承諾をいただいたこと。
- ・それ以外の皆様には御留任いただくこと。

特に異議もなく、原案のとおり承認された。

議長が、井上みやまさんに発言を求めたところ、以下のようなあいさつをいただいた。

- ・これまでお世話になったことの感謝。
 - ・当フォーラムが地域の皆さんとともに発展していくことを期待している。
- (議長) 井上みやまさんの健勝を祈念している。今後も会員として見守っていただき、叱咤激励していただければありがたい。これまで本当にありがとうございました。

総会の議事を中断し、直ちに臨時運営委員会が開催され、会長の選任及び副会長の指名が行われた。

総会の議事を再開し、事務局長が柴田洋雄会長と佐藤五郎副会長の再任を報告した。

その他、報告事項として、事務局長が会員の状況を以下のとおり説明した。

- ・令和2年度の特徴として、新型コロナウイルス感染拡大に伴う経営上の理由等から退会される法人会員が25会員に上ったのは例年にないこと。
- ・近年の傾向としては、高齢化や退職等を理由として毎年100人を超える個人会員の退会が続いていること。
- ・令和3年6月20日現在の会員数は3,326会員。

議長の指名により、以下の方々から発言をいただいた。

(原田俊二川西町長) 5月6日に新庁舎が開庁した機会に写真と灯りの展示会を開催していただき開庁に花を添えていただいた。山形の四季折々の風景を後世に伝え、広めていく素晴らしい活動。スポGOMI大会について本町でも取り組んでおり、子供たちを中心に保護者も参加して、環境教育にも役立っており、難しい話でなく目の前のゴミがきれいになると気持ちが晴れ晴れとするし、子供たちの姿を見ると将来に頼もしさを感じる。こうした取り組みも町として継続していきたい。

SDGsについては町としても目標を定め取り組まなければならない。ゼロカーボンについても国を挙げて進めていかなければならない時代となった。

これから雨が降るたびに、最上川がどうなるのか、首長たち皆がハラハラしている。住民の命を守るのは最終的に首長の責任であり、国、県、市町村が連携して取組みを強化していく必要がある。

(仁科洋一小国町長) 小国町の雨は、荒川、横川があるので大半は新潟に流れるが、飯豊、朝日の名峰を抱えており、そこに降った雨は少なからず最上川の方に流れていくと確信している。そんな思いを込めながら、監事の重責を務めてさせてもらいたい。

(議長) 最上川はあくまでシンボルであり、全県で美しく元気な地域づくりを進めるために全市町村から会員になっていただいている。

今後の課題として、農業分野との連携が弱いので、これを強化していきたい。山形の農産物は環境を考えたものづくりであるということをアピールできるように、一緒に連携していきたい。企業の皆さんにも、SDGsということで幅広く色々な方々と連携していきたいと考えている。

事業計画にあった「水シンポジウム」について、当フォーラムに協力要請があり、当フォーラムが設立20周年の節目を迎えることもあり、新型コロナウイルス感染対策の関係で今年は実施できないが、来年度に20周年事業の一環として参加したい。これまで当フォーラムがやってきた実績とこれからの方向を全国にアピールする機会として存在価値を高めたいと考えているので、皆様の協力をお願いします。

(橋本裕樹山形河川国道事務所長) 地域が主体となって最上川をとり上げて活動してきたことに河川管理者としても感謝している。昨年度、「流域治水」の考え方を打ち出して、自治体や地域の方々と一緒に治水を考えていく取組みを進めているところ。今年

度もよろしく願います。

(高野明酒田河川国道事務所長) 様々な工夫をされながら取り組まれている印象を持った。YouTube やデジタルコンテンツの活用により、若者や女性の参加が広げられればいいと思う。我々としても連携しながら取り組んでいきたいと考えているのでよろしく願います。

(吉柳岳志新庄華扇事務所長) 主に治水を中心に、環境も含めて川の周りのことを連携しながら取り組んでいく。周知啓発活動など色々な連携の部分、清掃活動や水質の話など様々な接点があるのではないかと考えているので、思いついたことがあったら事務所でも出張所でも構わないので、扉を叩いてほしい。

(赤部誠一山形県水質保全協会常務理事) 湧水活用事業について、令和3年度予算の支出額がゼロとなっているのは、今後補正予算を組んで事業を実施していくのだと思う。過疎化が深刻な地域ほど、恵まれた湧水が残っている。SNSによる情報発信もいいが、湧水に触れてみないとその良さが分からないと思う。高齢化も進んでおり、今が最後のチャンスかもしれないので、現地を訪ねる参加型イベントにしていきたい。若い人たちに体験してもらい、地域の方々も生き生きとして子供たちと触れ合い教えることができるような良い事業にできると期待している。

(議長) 湧水に詳しい地域の方が当フォーラムの地域部会に参加して地域部会の動きとしてやっていただく、そしてフォーラム全体へと持っていきたいと考えている。必要な予算については、フォーラムとして対応していきたい。御提案のとおり参加型の事業として進めていきたいので、今後も助言いただきたい。

当フォーラムの活動の中心は地域部会だと思っている。地域の方がやりたいと思っていることを地域部会が拾い上げ、予算も付けて実現していく。各地域部会がもっと手を挙げてくれるといいと思う。年度途中であっても、事業の中身が良ければ補正予算を組んで皆で協力して活動を推し進めていくというのがフォーラムの特徴。お金の制約で活動ができないということにはしたくないので、法人会員には年会費の増額をお願いし、行政には補助金を申請するなど努力しているところ。

お金がないからではなく、何をしたいか熱意がないからできないのではないかと考えている。是非皆さんから色々な意見を出していただければありがたい。

議長が出席者への謝辞を述べ、議事を終了した。(出席者から拍手)

以上をもって全ての議事を終了したので、14時58分に司会が閉会を宣した。